

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/10/24号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

日銀ドル買い介入とFRB金利上げ減速観測

SPDR Gold Shares円建価格



ゴールドとドルインデックス



上昇を続ける長期金利とドルの前にゴールドは下げる一方でしたが、その流れが変わったのが、日本時間金曜日の夜12時頃。ドル円が151.95まで上昇したところで日銀のドル売り円買い介入が入りました。財務省日銀は正式な発表をしていますが、その後の値動きを見る限り、相場押し下げを目指した介入が入ったことは間違いありません。ドル円は一時146円台まで下げました。（新聞には144円台と書いてありましたが、少なくともrefinitivの1分足の安値は146.32でした。OTC（相対取引）であるのでどこかで瞬間的に144円台をつけたのだと思いますが、たいていのところでは146円.30あたりが下値だったようです。）最終的に147.60近辺まで戻して、144円台を底値とすると半値戻しの状態で終わったこととなります。介入効果が前回のように一時的なものとなるのか、それとも円安トレンドを変えることができるのか、今週のマーケットの動きに注目です。この大きなドル売りの動きが、ドルインデックスを押し下げ、長期金利も下げたことから、ゴールドは急騰。介入前は1620ドルを割り込んで今週の安値圏にいましたが、1670ドル近くまで急騰、一週間の終わりは1650ドル台半ばとなりました。ゴールドにとっては日銀のドル売りに加えて、WSJ（Wall Street Journal）でFRBが11月0.75%の利上げのあとにそれ以降の利上げに関して、そのスピードを検討するとの記事が出たことも、これまで12月の利上げも0.75%という見方が強かったのが、大きく変わる可能性がある、ということになりドル売り、株買い、債券買いとなり、ゴールド買いにも拍車をかけました。今週は日銀介入の余波とFRBの今後の利上げをめぐる憶測、そして米第三四半期GDPに注目です。市場予想は2.1%の上昇。ここまで二期連続のマイナス成長であっただけにこのGDPの結果は大きく影響しそうです。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

「ゴールド現物の動き西から東へ」

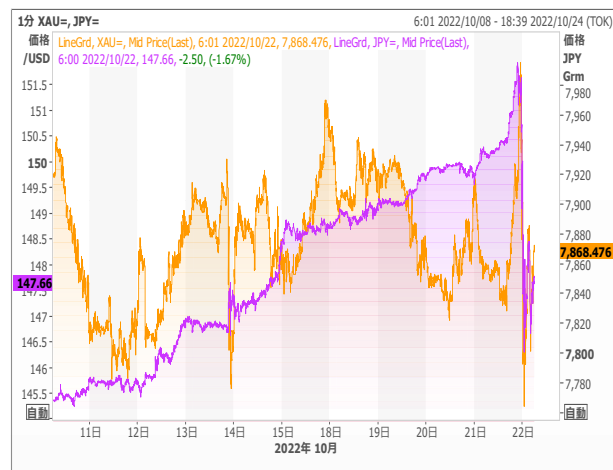
ゴールドが西から東へ動いている。欧米の機関投資家は、FRBの金利引き上げに応じて、ゴールドのポジションを売却している。世界のゴールドETF残高が9月は95トンの流出となり、昨年の3月以来の大きな残高減となった。その内訳は北米59トン、欧州36トンと欧米だ。世界最大のゴールドの先物取引所である米国コメックスの取引所在庫は、今年5月から300トン以上引き出されている。9月単月では約50トンの引き出しとなっている。これに加えてイングランド銀行を含むロコ・ロンドン・ゴールド口座からも9月は122トンものゴールドが引き出されている。そのうち95トンがETFだと仮定しても少なくとも27トンのゴールドがETF以外で引き出されたということになる。単純に計算しても9月に欧米のゴールドマーケットから流出したゴールド現物は170トンを上回る。これらのゴールドは一体どこに向かったのか？それらは中国を中心とする東方、つまりアジアに向かったと考えられる。上海黄金交易所のロコ・ロンドン・ゴールドに対するプレミアムは40ドルにまで上昇している。ロンドンから上海までゴールドを運ぶコストはせいぜい2~3ドルであることを考えるとこれがいかに異常なプレミアムであるか想像がつかう。9月の中国のゴールド需要は180トンと5カ月連続で増加している。国内の生産分やロシアからの輸入もあるので、すべてが欧米からの流出分ではないが、中国のゴールド需要は圧倒的だ。中国のみならずインド、トルコ、タイそしてサウジアラビアなどのゴールド輸入も大きく増えており、これらの国の中央銀行の買いも目立っている。東方の国々では、主体は個人と中央銀行であるが、価値が目減りする一方である通貨に対しての備えとしてゴールドの需要は根強い。欧米でも個人投資家ベースでは金貨や地金の需要がこれまでにないほど増加している。これらの草の根需要は金利やドルが上がろうとゴールドの下値を支えるだろう。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したのですが、情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

